

芸術学学位プログラム（博士後期課程）
Doctoral Program in Art

授与する学位の名称	博士(芸術学) [Doctor of Philosophy in Art]	
人材養成目的	造形芸術に関する創造的な研究能力を有し、卓越した専門的知識と実技能力によって、公的機関および企業等、社会の様々な領域に貢献しうる研究者、および、確固たる教育能力と研究能力を有する大学教員を養成する。	
養成する人材像	造形芸術に関する幅広い学識と高度の研究・開発能力および実技能力によって、政府、地方自治体等の行政、教育機関、企業等、社会の様々な方面において、研究、教育の指導的役割を担う人材	
修了後の進路	大学教員、美術館・博物館学芸員、行政機関や企業等の研究者。その他、画家、版画家、彫刻家、書家、造形作家、写真家、建築家、デザイナー、イラストレーター、映像作家、評論家等の、美術およびデザインにおける創造的表現能力を有する自立した研究者	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の創成力: 未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	芸術学特別演習 I A、芸術学特別演習 I B、芸術学特別演習 II A、芸術学特別演習 II B、DC 展での企画・運営・作品発表、論文発表、学会発表、公募展、コンクール等への応募など
2. マネジメント能力: 俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	芸術学特別演習 I A、芸術学特別演習 I B、芸術学特別演習 II A、芸術学特別演習 II B、DC 展での企画・運営・作品発表、論文発表、学会発表、公募展、コンクール等への応募など
3. コミュニケーション能力: 学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えるときに、質問に的確に答えることができるか	芸術学特別演習 I A、芸術学特別演習 I B、芸術学特別演習 II A、芸術学特別演習 II B、DC 展での企画・運営・作品発表、論文発表、学会発表、公募展、コンクール等への応募など
4. リーダーシップ力: リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	① 魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか	芸術学特別演習 I A、芸術学特別演習 I B、芸術学特別演習 II A、芸術学特別演習 II B、DC 展での企画・運営・作品発表、TA・TF 経験など
5. 国際性: 国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	芸術学特別演習 I A、芸術学特別演習 I B、芸術学特別演習 II A、芸術学特別演習 II B、国外での活動、(留学生を含む) 国際共同研究、TOEFL、TOEIC 等受験、DC 展での企画・運営・作品発表、論文発表、学会発表、国際コンクール等への応募など
6. 独創力: 芸術学領域において、一定の学術的意義を有した独自の研究を遂行できる能力	① 芸術ないしデザインの分野において、独創的な課題ないし解決を発見したか ② 先行研究に見られない、独自の観点をもって研究を遂行したか	芸術学特別演習 I A、芸術学特別演習 I B、芸術学特別演習 II A、芸術学特別演習 II B、DC 展での企画・運営・作品発表、論文発表、学会発表、公募展、コンクール等への応募など
7. 活用力: 芸術学領域において、信頼性ある学術的方法論を活用ないし提案する能力	① 芸術ないしデザインの分野において認められた、信頼性ある学術的方法論を用いたか ② 新規で有用な学術的方法論を提案したか	芸術学特別演習 I A、芸術学特別演習 I B、芸術学特別演習 II A、芸術学特別演習 II B、DC 展での企画・運営・作品発表、論文発表、学会発表、公募展、コンクール等への応募など
8. 開発力: 芸術学領域の学術進展に寄与する、新規で有用な信頼性ある結論を導く能力	① 芸術ないしデザインの分野において、学術進展に寄与するため、視野を拡大する課題を設定したか ② 新しい課題ないし目標を設定し、新規で有用な信頼性ある結論を導いたか	芸術学特別演習 I A、芸術学特別演習 I B、芸術学特別演習 II A、芸術学特別演習 II B、DC 展での企画・運営・作品発表、論文発表、学会発表、公募展、コンクール等への応募など

9. 展開力: 芸術学領域の学術進展に寄与する、研究発展性を見据える能力	① 芸術ないしデザインの分野において、学術進展に寄与するため、発展性のある課題を設定したか ② 将来、研究の展開が予想される結論を導いたか	芸術学特別演習 I A、芸術学特別演習 I B、芸術学特別演習 II A、芸術学特別演習 II B、DC 展での企画・運営・作品発表、論文発表、学会発表、公募展、コンクール等への応募など
学位論文に係る評価の基準		
<p>学位論文が満たすべき水準として、筑波大学大学院学則に規定された要件を充足し、学位論文が下記の評価項目について妥当と認められ、かつ、最終試験で合格と判定されること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 関連分野の国内外の研究動向及び先行研究の把握に基づいて、芸術学分野における当該研究の意義や位置づけが明確に述べられていること。 2. 芸術学分野の発展に寄与する独自の研究成果が、学術論文として発表するのにふさわしい量含まれていること。 3. 研究公正についての十分な知識に基づき、研究結果の信頼性が十分に検証されていること。 4. 研究結果に対する考察が妥当であるとともに、結論が客観的な根拠に基づいていること。 5. 研究の背景、目的、方法、結果、考察、結論等が、芸術学分野の博士論文にふさわしい形式にまとめてあること。 <p>学位論文審査委員会は、主査 1 名、副査 3 名以上、計 4 名以上で構成される。審査では 2 回以上の口述試験と公開発表を行うとともに、最終試験を受ける。</p> <p>なお、学位論文の審査を願い出ようとする者は、事前に学位プログラムにおける予備審査に合格しなければならない。</p>		
カリキュラム・ポリシー		
<p>芸術学学位プログラムは、造形芸術および国際的に芸術表現との関わりが重要視されているビジュアルデザインと環境デザインの各領域を専門とし、隣接関連領域との連携・学際性を強化した研究も展開する。主指導教員と副指導教員による、博士論文執筆の個別指導と助言を行うほか、全教員の参加による「芸術学特別演習 I・II」における指導と評価によって、国内国際学会における審査付研究発表や、学術誌への査読付論文投稿に必要な力量および実技能力を養成する。</p>		
教育課程の編成方針	<p>・「芸術学特別演習 I・II」(必修)によって、1. 知の創成力、2. マネジメント能力、3. コミュニケーション能力、4. リーダーシップ力、5. 国際性の各コンピテンスの能力を身に付ける。</p>	
学修の方法・プロセス	<p>・各年次において、主指導教員と副指導教員による個別指導を行う。</p> <p>・各年次において、「研究計画書」および「研究指導成果報告書」を提出する。</p> <p>・各年次において、作品制作を主たる研究領域とする者は、作品展示によって研究成果を公開する。</p> <p>・1・2 年次において、各学期に「芸術学特別演習 I・II」を実施し、複数の教員による口頭試問を行う。</p> <p>・3 年次において、予備審査委員会による審査を行う。</p> <p>・3 年次において、学位論文審査委員会は、最終試験と博士学位論文の審査を行う。</p>	
学修成果の評価	<p>・各年次において、主指導教員と副指導教員による個別指導を行い、学修成果を評価する。</p> <p>・各年次において、「研究計画書」および「研究指導成果報告書」により、学修成果を評価する。</p> <p>・各年次において、作品制作を主たる研究領域とする者は、作品展示によって研究成果を公開し、学修成果を評価する。</p> <p>・1・2 年次において、各学期に「芸術学特別演習 I・II」を実施し、複数の教員による口頭試問を通じて成績評価を行い、学修成果を評価する。</p> <p>・3 年次において、予備審査委員会は、所定の要件の確認と論文審査を行う。</p> <p>・3 年次において、学位論文審査委員会は、最終試験と博士学位論文の審査を行う。2 回以上の口述試験および公開の研究発表会によって修了を判定する。</p>	
アドミッション・ポリシー		
求める人材	<p>理論研究を主とする場合には、専門領域に関する知識および知的探求能力とともに、芸術に対する深い理解と感受性を有した人材を求める。制作研究を主とする場合には、独自の表現世界を確立するための創造的態度と能力とともに、分析的・合理的思考力を有した人材を求める。</p>	
入学者選抜方針	<p>修士論文またはそれと同等と認められる研究内容、および入学後の研究計画について口述試験を行う。またこれに基づき、専門領域に関する質疑応答を行う。</p>	